

議員（村岡 清邦）

6番、村岡清邦です。

私は、豪雨による浸水対応などについて質問させていただきます。

新聞の天気図を見ていて、沖縄周辺に梅雨前線が現れると、また梅雨の時期か、そして降水量のことが心配になってきます。

じとじとと降る雨の時は、浸水の心配はやや遠のいていますが、時折豪雨になることもあり、油断はできません。

本町の豪雨などによる浸水地域の説明の資料を以前見せていただいたと記憶いたしております。

また、昨年も集中豪雨があり、浸水となった地域もありました。

最近では、河川も整備され、上流からの流水速度も速まり、本町への到達時間も短時間で到達することになり、本町の降水量のみならず、上流地域の降水量についても察知しなければならないこととなります。

一方、河川の形態と申しますか、うまく表現はできませんが、構造上、流水をせき止めることとなっていないか、そのことにより特定の地域が浸水することとなっているのかもしれない。

そうしたことに対応するための点検調査も必要になってくるのではないかと考えます。

河川の川ざらいについても、重要なことと思います。

現在は、水利組合の方々が中心に対応をいただいておりますが、その方々も高齢となっておりますし、後継者不足により、その数も減少してきているのではないのでしょうか。

そこで、お尋ねいたします。

1つ、琴平町、善通寺市の降水量の状況の把握には、時間的にどのくらいの時間で知ることができるのでしょうか。

また、難しいのかもしれませんが、到達時間はどのくらいなのでしょう。

1つ、昨年の夏だったと思いますが、集中豪雨のときの浸水地域はどの辺りだったのでしょうか。

1つ、浸水となったのは、降水量が多量であったこと以外に何か要因もあったのでしょうか。

1つ、その後、河川の形態、構造などの点検調査は行いましたか。

1つ、今後のことを考えるとき、町として川ざらいの対応をどうお考えでしょうか。

以上、質問いたします。

よろしく申し上げます。

町長（丸尾 幸雄）

村岡議員のご質問、豪雨による浸水対策などについてお答えをしてみたいと思います。

まず、1点目の琴平町、善通寺市の降水量の状況把握とその到達時間についてでございますが、本町での降水量を把握するのと同様に、気象庁の雨量データや県の砂防情報システムから得ております。

また、到達時間につきましては、上流域の全降水量が全て多度津町へ流入するわけではございませんが、議員ご指摘のとおり、本町より上流域での降雨は水害という観点から、非常に重要な要素の一つであります。

しかしながら、河川や水路などの改良・整備が普及し、また農地の宅地開発の進展など地理的条件も今と昔では大きく変わってきており、現状では予測しがたく、到達時間の把握は難しいと考えております。

ただ、議員のおっしゃる降水量のデータに加え、水位観測所のある河川の水位情報や人による目視などを踏まえ、最善の判断を行ってまいりたいと考えております。

以上、ご理解賜りますようお願いを申し上げ、答弁とさせていただきます。

総務課長（矢野 修司）

続きまして、ご質問のうち2点目の昨年夏の集中豪雨時の浸水地域はどこかというご質問でございますが、議員ご指摘の昨年夏の集中豪雨とは、昨年6月23日の大雨、9月8日の大雨、9月20日の台風16号に伴う災害のことであると認識いたしております。

いずれも本町にとって非情な事象だったと記憶しております。

ご質問にある浸水地域でございますが、6月23日の大雨では幸いにも被害は確認されませんでした。9月8日の大雨では時間雨量が50mmを超えたこともあり、西浜の一部で床下浸水、桜川1丁目、栄町1丁目、西港町で道路が一部浸水いたしました。

また、9月20日の台風16号関係では、大雨と満潮が重なり、本通1丁目と2丁目、京町、栄町2丁目と3丁目、仲ノ町、大通りのそれぞれ一部で床下、床上浸水、また栄町2丁目と3丁目、京町、桜川1丁目、山階で道路の一部浸水や冠水の被害がございました。

続きまして、3点目の浸水は多量の降雨量のほかに何か要因はあるのかというご質問でございますが、先にも述べましたように、降水量に加え、本町の上流域の河川や土地などの地理的条件、また既設の排水ポンプの能力や水路の能力、さらには、本町は海に面しておりますことから、満潮や高潮など避けられないものなど複数のさまざまな要因が考えられます。

続いて、4点目の河川の形態などの点検調査についてでございますが、本町に

流れる河川や水路におきましては、所管する県や本町で点検や調査を実施いたしており、必要であれば予算の範囲内ではありますが、適宜河川や水路の改修に努めているところでございます。

しかしながら、大幅な改修ともなると多大な費用や各種調整が必要となる実情もございますので、ご理解いただきたく存じます。

本町といたしましても、今後も引き続き随時点検調査を行い、必要に応じて改修等の措置を講じ、また河川管理者である県へも適宜要望し、関係部署と情報を共有しつつ、防災減災に努めてまいり所存でございます。

最後に、5点目の町としての川ざらいの対応についてのご質問ですが、町内の用・排水路においては、地元の水利組合や受益者である農家の方々、また地元の自治会の方々など、いずれの水路も地元の多くの方々のご理解とご協力をいただき、定期的に清掃管理を実施していただいております。

ここに改めて感謝を申し上げる次第でございます。

なお、川ざらいで出た堆積物などは本町の責任のもと、早急に回収し、処分を今後も行っていまいります。

さて、議員ご指摘の川ざらいにおいて、後継者不足ではないかとのことでございますが、近年の少子・高齢化や農家離れなど世の中の環境が少しずつ変化してきており、その影響が出てきていることは間違いないと考えます。

この水路の維持管理が厳しくなっている問題は、本町としても懸念材料の一つとして重く認識いたしております。

しかし一方では、農業振興地域限定ではございますが、多面的機能支払交付金制度を活用して、水路の維持に努めているところもございます。

この制度も含め、今後本町といたしましても、引き続き地元の方々を初め、関係部署や関係機関と協議を重ね、水路の維持管理について持続可能な仕組みづくりに取り組んでまいりたいと考えております。

以上、ご理解賜りますようお願い申し上げ、答弁とさせていただきます。

議員（村岡 清邦）

現状では予測がしがたい、あるいは到達時間の把握は難しいとのご答弁がありました。

なるほど、本町への流入する水がどのような地域から流れ込んできている水なのか、このことの把握は非常に難しいのかもしれない。

私も昨年ですが、孫が上流地域の学校に通っておりまして、緊急のメールが入ってきました。

運動場が水浸しでじいちゃん帰れんのやというようなメールだったんですが、迎えに来るときにじいちゃん死ぬなよというような感じで、本人は学校の校庭が水浸しになつるというのを非常に怖かったようなことでメールが

入ったんだろうと思うんですが、私が迎えに行ったときは、もう既にその水も引いて、校庭を歩ける状態になっていました。

そんなこともありましたから、行きも帰りも金倉川の横を通りながら上流地域のほうへ向かったんですが、帰りに金倉川を見ても、濁った水はまだ流れてきていませんでした。

おおよそ1時間程度は影響がなかったということは、その高校から金倉川へ流れてくる水の中にはその校庭の水ははまってなかったのかなあという感じもして、非常に答弁にありましたように、どこから流れてきたかということについては難しいという判断だろうというふうに私もそんな思いはします。

そこで、例えば後追いにはなるかもしれませんが、災害が起きた前日、あるいは災害の当日、あるいは災害の翌日の3日間についての降水量の記録とか、あるいは河川の水位の状況とか、それから満潮時の時間とか、他には災害がどのあたりに発生したとか、そういうような記録は現在とっておられるのでしょうか、どうでしょうか、お尋ねをいたします。

総務課長（矢野 修司）

ただいまの再質問にお答えをいたします。

確かに、議員今ご指摘をいただきましたような災害発生時を中心にその前後の記録、大雨の降水量等々についての記録をとることが統計上新たな災害時の大きな参考になるであろうということは十分認識をいたしております。

先ほど申し上げました今年の9月8日と9月20日、この時には災害対策本部を立ち上げて、その中で当然降雨量等については把握をしながら、それにプラスすることを人間の実際の目視等々も含めまして、関係課の巡回等の中で情報を収集いたしております。

ただ、その一つの災害についてのタイムライン的な報告書的な取りまとめの記録事項というのはあると思いますが、それが対外的に公表はされておらない状況でございまして、それをはっきりと災害ごとに時系列を追っての情報、降雨量を中心とした災害の程度、拡大等との関連性が明確にわかるような一つの報告書としての調整につきましては、今後しっかりと公表できるような形での作成を目指していかなければいけないのかなと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（村岡 清邦）

ありがとうございました。

やっぱり、そうした災害の記録の積み重ねが次に起きるであろう災害の、起きたらいかんのですが、起きたときの災害の予測にもつながっていきるのではないかと、前回のときはこういうようなデータやったよ、そのことの積み重ねがあのかどうかはこうやった、このときはこうやったというような積み重ねが

予測するための資料につながってくる、災害を、察知をする早い記録につながってくるのではないかということに私は思いますので、ぜひとも、どんなような数値を残しておけばいいのかなあというのは私が今思うのは、先ほど申し上げました、もちろん降雨量の記録、あの日は降雨量がどのくらいあった、その1日のうちの最高時間帯で50ミリの雨が降った、先ほども書かれていました。

そのようなことの記録とか、満潮時間の記録とか、あるいは桜川の水位が何時にどの程度あったとか、そういったようなことを災害の記録として保管しておく。

今度、大雨の注意報が出た、警報が出たといったときには、ペーパーとしてひも解き出せるような形の取り組みが必要なのかなあというふうに思います。

先ほど、昨年私の記憶間違いかも知れませんが、どの時期の大雨だったかということについては、ちょっと頭にはないんですけども、自動車学校の東へ進む道の道隆寺にはまる道路なんですけど、そこも少し浸水をして河川なのか、道路なのか、その判断がつかなかったというような記憶しとんですが、その記録については残念ながら先ほどの答弁の中からは漏れとったんですけども、そうしたこともあったのではないかなあということもありましたんで、できるだけそうしたような記録というのは残しておいてほしいなあというふうに思っております。

次に、随時点検調査を行うということなんですけど、地元水利の方々とも連携をしながら、水路の形態、それから現状の把握をすることも大変重要なことではないかなあというふうな気がします。

そこで、点検調査に際しまして、地元の水利の方の意見の聞き取りなんかを行うお考えはありますか、ご質問いたします。

総務課長（矢野 修司）

ただいまの村岡議員の再質問についてお答えをいたします。

議員ご指摘のとおり、河川、水路の発災後の点検調査等の折には、もちろん発生時には行政職員としての目視等、現場には出向いてはおりますが、その後の調査等につきまして、地元の関係者の方々の意見聴取をするということ是非常に有効なものだと考えますので、今後検討させていただきたいというふうに考えております。

よろしく願いいたします。

議員（村岡 清邦）

失礼します。

ありがとうございます。

ぜひとも、災害が起きた後に、もう一度点検調査をするというようなことも含めてやっていただきたい。

それは、南海地震等のことも想定をされるという中での対応をいろいろやっておられるわけですから、豪雨あるいはゲリラ豪雨等に係る部分にあっても、予防、災害の起きる前にいろいろな取り組みをしておくことは非常に重要なことだと思っていますし、私たちが思わぬところに、水路が上流の水路よりは下流に行くところの水路が若干細くなっているというところは、地元の方が一番よくご存じだろうと思っていますから、そういうような地元の方の意見というのもしっかりとお聞きをいただきたいなあというふうに思いますし、もちろん多度津町は災害が起きれば大変な被害をこうむるわけですが災害が起きないように安心・安全のための調査する予算とか、そうしたものの財源も少しはそこに入れていく必要もあるのではないかなあという気がしますので、ぜひとも取り組みをお願いをしたいと思います。

何回も繰り返してのお話になりますが、やっぱり地元の方のご意見というのが私たちの目の届かない部分もたくさんあろうかというようなこともありますから、今後浸水の対応を進めていく上では検討をしながら、河川の管理が継続可能な仕組みづくりをしていただける、このことを目指していただくように切に要望して私の質問は終えたいと思います。

以上です。ありがとうございました。